

黒埼南ふれあい協議会ニュース

第4号

# ふれあいかわら版

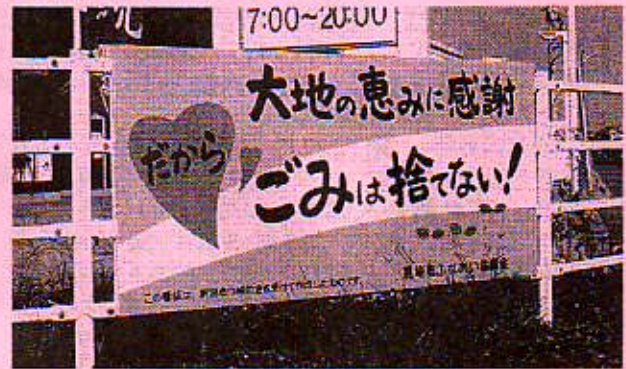
## 大地の恵みに感謝、 だから、ごみは捨てない！

去る8月に、黒埼南ふれあい協議会生活環境部会（部長坂井健一）が、地域内4か所にごみ不法投棄を注意する看板を設置いたしました。

ごみの無い社会は、私たちの心を豊かにし、さわやかな気分にしてくれます。私たちは自然と共に優しく生きる心の豊かさを求めています。

ごみを平気でポイ捨てる貴方たちに、私たちは善良な市民としての責任と自覚を持って欲しいと願っております。

多くの市民は、自然環境を最優先の課題にして、大地の恵みに感謝しながら生きているのです。だから、平気でごみを捨てることができないのです。



看板の設置は、新潟市の地域活動費の補助金を受けて作成いたしました。

## 木場八幡宮、秋季大祭でにぎわう

去る9月3日、4日の両日に亘って、奉賛会と連合自治会の準備の下に木場八幡宮の秋季大祭が執り行われました。そのあらましをご紹介します。

秋季大祭は、3日午後6時10分の宮上りで始まり、宵宮（大祭前夜の小祭）へと連なっています。連合自治会長を先頭に触れ太鼓、各種団体のおもだちが、木場八幡宮に向けて練り歩きます。

すでに日が暮れた木場八幡宮境内には、さまざまな出店が所狭しと軒を連ねており、参拝者ごとに子ども達で大賑わいでありました。

宮上りの到着とともに早速、宵宮の神事が執り行われ、真田宮司列席の下、土田神官の祝詞奏上で五穀豊穡と木場地域の発展を祈願いたしました。

午後8時から宮のもり・木場城公園内のステージ上は、芸能保存会、木場小唄保存会、民謡クラブなどの芸能奉納と歌手の愛一二三さんの歌謡ショーも加わって秋季大祭のにぎわいは一段と高まりました。

4日は秋季大祭の本祭。再び、午後1時10分に宮上りを始めます。木場八幡宮に到

着すると直ちに真田宮司と土田神官による神事を執り行い、各種団体の玉串奉奠（関係者同拝）で、五穀豊穡と木場地域の発展を祈願いたしました。



宮上り



境内出店



▲愛一二三  
歌謡ショー

## 特別寄稿

木場八幡宮秋季大祭の神事を執り行われた土田弘神官（新潟市関屋浜松町在住）から木場八幡宮や木場の歴史に関わる貴重なお話をお伺いしましたので、特別寄稿のかたちでご紹介いたします。

### 木場八幡宮と山際七司先生

木場八幡宮の春季大祭・秋季大祭の本殿の開閉の鍵は、武田利秋木場八幡宮氏子総代が1849年に木場の地に誕生された山際七司先生の誕生の家から授かり、祭主が開閉する慣例になっている。そこで、木場八幡宮と山際七司先生の関係について各種の資料を参考にまとめてみた。

八幡様の祭神「應神天皇」は、「武神」「平和の神」としても崇められている。

木場八幡宮は、いつころ建立されたのだろうか。

その起源は、昭和18年の木場八幡宮の改築の際、取外した神社の古い細長い棟札が山際家に保存されていた資料から1710年に建立されたと推測される。

昭和16年、第二次世界対戦が始まり、ミッドウェー海戦、ガダルカナル島の撤退、戦局は、益々厳しくなり、お宮での行事も多くなって来た。村内で拝殿改築の議が起こり、4年間の計画で、村民一致で改築を可決した。上棟式は、昭和17年12月挙行されたが、本殿の遷座や忠祀堂の移転等の附帯工事があり、すべてが終了したのは、昭和20年10月であった。

境内には、忠祀堂と白龍様がある。忠祀堂は、日清戦争・日露戦争、太平洋戦争の戦没者78名が合祀されている。昭和19年、八幡宮の拝殿再建に併せて、神殿として改築された。毎年、年3回祭りに併せて祭典を行ない、国の為に散華した英霊に感謝の真を捧げている。

山際七司先生は、1849年、木場の庄屋の長男として誕生した。幼少の頃から学問に励み、15歳の頃には、漢学を学び、漢学者と言われるまでに成長した。

しかし、郡司の長男であったため、戊辰の役には、郷勇団を組織して米沢藩軍に加わり政府軍と戦い敗北し、悲嘆にくれて木場へ帰ってきた。しかし、明治5年に出版された、福沢諭吉の『学問ノススメ』「天八人ノ上二人ヲ造ラズ、人ノ下二人ヲ造ラズト云ヘリ。——」の内容に感激し、これからは、政治家になって、郷土や国のために働こうと決意した。そして、明治12年、新潟県会が設立されると54人の県会議員の一人に選ばれた。山際七司先生は、議場で雄弁をふるい議会をリードした。明治14年、板垣退助を総理として大日本自由党が結成されると山際七司先生は、幹事に選出された。

明治22年、山際七司先生は、板垣退助先生を新潟にまねき、自由民権運動を通して国会開設、租税軽減、条約改正の重要性を訴えながら遊説した。

明治23年、民選によって衆議院議員に当選し、その活躍が期待されたが、明治24年わずか42歳で終わりをつげた。その一生は、波乱に満ちたものであったが、郷土や国のために捧げた不屈の精神は、木場住民の誇りとなっている。

私は、神官として、武田利秋氏子代表をはじめ役員の方々が、約300年にわたる、先人たちの伝統を受け継ぎ、「五穀豊穡」「木場地域の平和と発展」の秋季大祭の祈願に参加させてもらっていることに、歴史の重みを実感し、感謝している。

#### 参考文献

昭和50年10月15日 発行「越後 木場の郷土誌 黒崎町木場公民館」より

昭和51年5月31日 発行「人物日本の歴史」より

黒埼南ふれあい協議会地区内にある神社をご紹介します。

#### ・緒立八幡宮（黒鳥・緒立）

八幡信仰に由来するもので、祭神は應神天皇・誉田別尊（ほんだわけのみこと）となっております。

#### ・木場八幡宮（木場）

拝殿と本殿からなり本殿は新潟市の文化財に指定されております。祭神は緒立八幡宮に同じです。

#### ・神明社（北場）

伊勢信仰に由来するもので、伊勢の内宮を分霊し、天照皇大神を祀っております。

#### ・伊多井神社（板井）

もとは神明宮でしたが、同じ板井村にあった八幡神社を明治43年に合祀しております。

### 神社紹介

### 芸能保存会員募集

伝統芸能の保存や継承の問題は重大な課題となっております。棒踊りや手踊りなどの踊り手は欠くことのできない人材です。興味関心のある人を求めています。自薦他薦何れも大谷福市（会長）までご連絡ください。 電話 377-3449